

伝統を受け継ぎ築く、 太平台での第一歩

307 名の新入生を迎え 第 45 回入学式挙行



4月7日、第45回入学式が学園40周年記念館を式場にして、多数の来賓・ご父母・教職員が列席し厳粛に執り行われた。式は開式の辞に始まり、中村幸弘学長から新入生全員に本学への入学許可が申し渡された後、式辞が述べられ、木村好成理事長の告辞、在学生による新入生歓迎の辞、新入生宣誓とつづき、学園役・教職員紹介、校歌斉唱、閉式の辞をもって終了した。新入生は307名（国文学科70名、家政学科46名、初等教育学科79名、日本史学科69名、商学科43名）。

▲宣誓を行う新入生代表
宣誓を述べる中村幸弘学長



國學院大學
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第166号

かゝやかに 穂並みゆす
れて、吹きとほる 麦原
の底の風はほとれり
釋 遼空
『海やまのあひだ』

努力を讃える

奨学生9名
表彰者10名に授与

5月19日、西三号館大会議室において、入学試験奨学生（1年生30万円）・成績優秀奨学生（2年生30万円）・学生表彰制度表彰者（2年生5万円）に、奨学金および報償金を給付・支給する授与式が行われた。これは佐々木周二学園長記念奨学金を運用するもので、勉学に精励しその成果が顕著である学生、他の模範となる学生のさらなる育英をはかることを目的に昨年から制定しており、それぞれの規程に基づいて選考された19名に授与された。

平成22年度の受章者は次のとおりである。

入学試験奨学生（1年生）

国文学科 岩下 仁美
日本史学科 鈴木 翔太

成績優秀奨学生（2年生）

国文学科 野澤 麻美
保坂 一美



中村学長より表彰状を授与される受章者

家政学科	蘭部早百合
初等教育学科	佐々木絵理香
日本史学科	荒川 優香
商学科	梅津 志帆
	若林 静香
(7名)	
学生表彰制度表彰者(2年生)	
国文学科	岡田のぞみ
家政学科	塚田 有香
初等教育学科	佐藤 綾佳
	原澤くるみ
日本史学科	林田 恵実
	日向野智代
	高橋 萌
商学科	沼子なつき
	磯田香央里
	渡邊 早智
(10名)	

四つの約束を掲げて 短期教育の魅力を創る

学長 中村幸弘



國學院大學栃木短期大学も、百二十八年前の明治十五年、有栖川宮幟仁親王の告諭をいただいて創設された國學院大學の建学の精神をそのまま承けて設立された。國學院大學の關係諸教育機關は、その精神を、時代々々に即応させて引き継いで、それぞれに意義ある存在となっている。その告諭や、長く歌い継がれてきている校歌からは、國學院が、日本人を意識して日本人の生き方を体得する場であると、直ちに理解される。その学問研究を通して、日本文化の真髄を窮め、その自負する誇りを世界に発信し、広く外国の人々と交流していきける日本人を教育する場である

と、位置づけられ、評価されてきている。

いま、情報化と国際化とが地球の上を狭くしている二十一世紀だが、それだけに、どんな日本人を教育して世界に送り出すかが、大きく注目されている。日本人が伝統を重んじて培ってきた勤勉さ・忍耐力・協調性は、日本文化に潜んでいて、国際社会が期待している人間像なのである。謙虚ななかに勇氣と正義感を秘めている人間は、どのような風土や文化から生み出されるのか、世界の大きな課題である。

学校制度は、確かに、その国の将来を決定づけるものともいえよう。大学・短期大学への進学率が五十パーセントになろうという、この国だが、大学の教育は、必ずしも十全とはいえない。世は、ただ、入学に向けてだけ競争を続け、公立までが中・高一貫化し、さらには、小・中一貫ま



総合ガイダンスで、本学の学びの特色を真剣に聞く新入生

でが試みられている。いや、さらに、中等教育学校が、この数年の話題である。その一方に、フリースクールが、多様に多様を重ねている。

いったい、いづこで、生涯弛むことない意欲を抱きつづけることができるようになるのであろうか。結果の見える労働を喜び、文化や芸術の享受を楽しむ、その体質の養成をこそ、教育の究極の眼目に位置づけなければならぬ。この時代、二年の短期に完成を強いられる短期大学にこそ、その全人教育が可能となる。そして、國學院大學栃木短期大学だけが、そ

れを可能たらしめる確かな大学である。

在学生諸君にはもちろん、本学への志願者諸君に向けて、次の四つの約束を掲げたい。

それには、諸君の一人ひとりが、自分をどんな自分にしたいか、希望を述べてくれないければならない。そのうえで、本学は、諸君全員を、次のようにきつときつと教育すると約束する。

◇培った教養を社会生活において活かしていける日本人
◇自立した職業人として、主体的に判断できる日本人
◇情報を適切に受けとめ、行動に結びつけていける日本人

◇国際化時代を意識し、世界の人々と共生していける日本人

本学は、斯花アワーという時間を配して、学級担任との接触が緊密である。オフィスアワーも配されていて、全教員と容易に接触できる。学生相談室も学生支援室も充実している。どうぞ、遠慮なく、どういう自分にしたいか、言ってほしい。資格取得でも、就職試験でも、編入試験でも、

本学は、諸君の希望を叶えることを使命としている。本学の教職員は、こぞって諸君の支援に最大限の努力をしようとしているのである。

本学は、この四十四年の間に、二万二千八百八十五名の卒業生を世に送り出している。

北関東だけでなく、広く全国において、職場において家庭において、この日本の国を支えている。海外在住者も、また、留学生として来日、既に帰国している方もいよう。その卒業生の皆さんには、いま、本学は、ここに新たに、建学の精神の解釈を四つの約束として公示したものと受けとめてほしい。歴代の学長が、それぞれの時代に即して示された解釈と、併せて受けとめていただきたい。

本学は、いま、カリキュラムを始めとして、すべての教育活動において、ここに示した四つの約束の実践に努めている。全教職員が、一人ひとりの学生に向けて、その働きかけに取り組んでいる。卒業生の皆さんにも、そのご協力がいただきたいと願っている。

第三者評価 適格と認定される

ALO 教授 林田孝和

平成21年度第三者評価で、
本学は適格と認定された。この認定証贈呈式が、平成22年5月13日午後2時から、本年度認定された65校中57校が参加して、郡山ビューホテルアネックスで行われた。本学からは木村好成理事長、中村幸弘学長、ALO（第三者評価連絡調整責任者）を務めた私が出席した。

第三者評価は、学校教育法109条第2項に定められた認証評価で、7年間に一度受けることが義務づけられているものである。

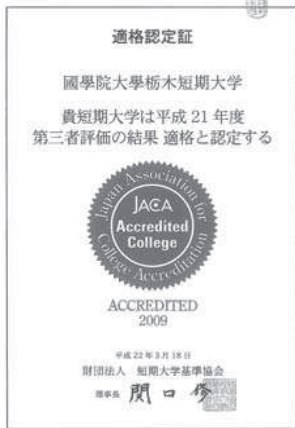
本学は平成16年度から準備を始めた。17年4月20日「第三者評価委員会」（20年6月自己点検・評価委員会と改称）を発足させ、

21年度の提出に向け、報告書の作成にあたった。平成20年度の報告書をメインに、18年度、19年度の三冊を完成させ、厚さ10センチに及ぶ添付資料を添えて、6月

末日に財団法人短期大学基準協会に提出した。10月20、21日の三日間にわたり、戸田洋樹駒澤女子短期大学長をチームリーダーとする五氏の評価委員の訪問調査・面接調査を受けた。平成22年3月19日付で評価結果「適格」の通知を受けとった。

評価は、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標／教育内容／学生支援／研究／社会活動／財務など十領域にわたるものであったが、すべてに適合の評価結果をえた。

全学をあげての取り組みであったが、とくに報告書の執筆にあたられた酒寄雅志教授をリーダーとする作業部会の方々の労にたいし深謝する。



第43期生の進路

今春卒業した第43期生の主な就職・進学先は次のとおりである。就職先は名称を、進学先は学校名を表記した。

- 建設業
ホリ工電設工業㈱
- 製造業
富士食品工業㈱
㈱アイ・シー・エス
高島産業㈱
㈱タケザワ
㈱中越ドレス
山一化学工業㈱
㈱スギノテクニクス
日立化成エレクトロニクス㈱
㈱大目光・エンジニアリング
キヤノンオプトロン㈱
ホクエイ化工㈱
芝罘三㈱
- 運輸・郵便業
㈱辻青果
宇都宮中戸祭郵便局
■卸売・小売業
㈱菱食
会津ヤクルト販売㈱
㈱ダイハツ販売㈱
㈱Oza On Japan
㈱オートニ
㈱日成メディアカル
㈱ファイフオックス
■宿泊・飲食業
㈱あさやホテル
㈱花屋旅館
元気寿司㈱
㈱パロット
■生活関連サービス業・娯楽業
アルファクラブ栃木㈱
㈱オータ
㈱南ヶ丘牧場
㈱紫塚ゴルフクラブ

- (有)シンガイ写真館
ロイヤルネットワーク㈱
■教育業（幼稚園・保育園）
愛育幼稚園
今市幼稚園
岩舟幼稚園
鹿沼幼稚園
黒磯いずみ幼稚園
さかえ幼稚園
しょうび第二幼稚園
静林幼稚園
ちくみ幼稚園
東部文化幼稚園
能満寺幼稚園
終幼稚園
まこと幼稚園
松沢幼稚園
若葉幼稚園
中島村立中島幼稚園
國學院大學栃木二杉幼稚園
■教育業（中学校・高等学校）
鹿沼市公立学校
■教育業（養護教諭）
小野町公立中学校
檜枝岐村公立中学校
古河市公立小学校
栃木県立特別支援学校
茨城県立特別支援学校
鹿沼市公立小学校
上三川町公立小学校
高根沢町公立小学校
■学習支援業
茂木施設管理組合ましかど図書館
鹿嶋市どきどきセンター
障害者支援施設設置子マインド
伊勢崎市（通称指導）
二本松市（学童保育）
草津市（学童保育）
金の鳴る丘友の会（学童保育）
■医療・福祉業
大平下病院
いのき眼科クリニック
清野歯科医院
- 田代耳鼻咽喉科医院
村山医院
横出耳鼻咽喉科医院
鷺谷病院
せき内科胃腸科クリニック
ファンコート郡山
星風会
光風荘・アネックスきずな
みつみねの郷
老人ホームヒューマン・ハウス
㈱やさしい手
■複合サービス業
小山農業協同組合
上都賀農業協同組合
佐波伊勢崎農業協同組合
■サービス業
明治神宮崇敬会
群利産業㈱
堀江会計事務所
南飯沼保険事務所
湯西川・川俣・奥鬼怒温泉観光協会
■公務員
稲敷市公立小学校（学校事務）
宇都宮市役所
横浜役場
■編入学先名称
國學院大學
文学部日本文学科
文学部史学科
経済学部経済学科
経済学部経営学科
埼玉県立大学 健康開発学科
東北学院大学 文学部歴史学科
東京家政学院大学 家政学部家政学科
鎌倉女子大学 家政学部家政保健学科
奈良大学 通信教育部
■進学先名称
栃木県東南高等看護専門学校
太田情報商科専門学校
国際ファッションビューティー専門学校
東京エストラベル・ホテル専門学校
東京スクールオブビジネス専門学校
東洋美術学校
ヒコ・みづのジュエリーカレッジ

新任教員のメッセージ

一歩そして一歩

講師 英語 天野寿々子

「英語はーと苦手だったんです。」授業の後でよく聞く言葉です。意志を持って時間をかけても駄目でしたか。授業を聞き流していただけでは当然の結果です。それを

苦手とは言いません。過去のことは捨てて、今日から始めましょう。英語はもちろんしたい事、なりたいたい自分に向かって一歩踏み出しましょう。

自分の「山」に自分を信じてあせらず一歩、一歩。私も今年から新しい山に登り始めました。

平成21年度

国文学科コース別研修旅行

国文学科では、毎年恒例の行事として、一年生を対象とする一泊二日のコース別課外研修を実施している。昨年度までは夏季休暇中に実施していたが、本年度から、春の年度末休暇中に実施することと

した。本年度は入学式直前の4月2日～3日に実施された。

日本語・日本文学コースは、「江戸と東京の文学と歴史を学ぶ」をテーマに、古典文学・近代文学・日本語学に関係の深い博物館・文学館等を訪ねた。

創作文芸コースは、「創作の現場を訪ねて」をテーマに、ジブリ美術館・印刷博物館等を見学した。

民俗文芸コースは、「下総国における庶民信仰の古利と民俗文芸ゆかりの地を巡る」をテーマに、千葉・東京の博物館・社寺・遺跡等を探訪した。



人気のジブリ美術館の見学

平成22年度

委員会の改変・新設

学務推進委員会
FD・SD委員会

平成22年4月より、学務運営、学生育成をさらに充実させるため、1委員会の改変、2委員会の新設を行った。3

委員会の特長は、学長直属委員会であること、委員は所属学科学科長（一般教育代表）および事務長が推薦する者と規程されたところにある。

従来の将来構想委員会を発展的に解消し、学務推進委員会が発足した。この委員会は、

本学の学務全般について審議することを任務としている。教務委員会の小委員会であったFD委員会を独立した委員会とした。本学の教育水準の向上をめざし、教育内容や教授法を組織的に点検・開発

することを目的としている。同時に、職員に対しても、

学生指導・学生相談技術の修得、進路指導に対する共通理解などを目的としたSD委員会を正式に設置し、研修を行うっていくこととした。

PCによる

履修管理システム試行

日本史学科を対象に

商学科講師 五味俊夫

新年度と共に、日本史学科を対象に履修管理システムの運用が開始されました。これまで学生が手書きしていた履修届が、情報処理室のPCを使って登録できるようになりました。

登録された履修届は、講座別名表や出席表として教員も利用できます。さらに成績評価を加えると、履修管理システムのデータベースが完成します。

こうして集積されたデータは、ほかにも様々な資料作成や申請書類などにも拡大利用することが可能です。

IT化は、仕事を熟知している当事者自らが、推進することによって最大の効果を発揮します。この度のシステム構築には、日々の教務事務に携わっている教務課の職員の方々と、直接授業を担当されている日本史学科の先生方の協力を得て、初めて可能となったのです。プログラムを担

当した私としては、本学の教職員組織の質の高さを垣間見た思いがしました。

運用を始めて二ヶ月が経ちましたが、何よりも本学にとって、有益なシステムとして、定着、進化していくことを期待しているところです。

◇ ◇ ◇

初めてPCによる履修届を行った日本史学科の2年生に、その感想を聞いてみました。「手書きするよりきれいで、見やすくなった」「間違えて入力しても、エラーが赤で表示され、安心して入力できた」「自分の履修の手控えがすぐにプリントアウトされ便利」「一年生のときに単位修得した科目が、すぐにわかり便利」など、大旨好評でした。ただ「入力途中でPCがフリーズしてしまい困った」という問題点も指摘され、今後の課題も明らかになりました。

日・韓交流が進展

漢陽女子大学から三名



第2期留学生（国文学科2年）

左から 金宣英さん 權秀振さん 金世燕さん

本学との学術・文化交流協定に基づき、第2期漢陽女子大学日語通訳科卒業生に対する留学生試験が、平成21年10月24日、漢陽女子大学を試験場として実施された（村山・千明教授、石坂学生課長。3名の志願者があり、科目試験・面接試験の結果をもとに、判定会議を経て、10月30日、3名の合格が発表された。3名は、4月7日、国文学科2学年入学者として入学式に臨み、中村学長の式辞のなかで紹介された。留学生たちは、日本語・日本文学の研究者、日韓の文学を両国で紹介する翻訳家を目指して学んでいる。

なお、第1期留学生は、初

志を達成し、2名が、國學院大學文学部日本文学科への推薦編入学が許可された。

本学から二名が留学



韓国へ（国文学科2年）

3月1日成田空港から出発

左から 金子由希さん 佐藤菜奈子さん

韓・日大学生交流事業による国費留学生として、漢陽女子大学から、本学国文学科学生を対象に、2名の留学生枠を与えていただいた。国文学科では、学科学生全員から志願者を募り、希望学生のなかから2名を決定した。韓国からの日本人学生招請の目的は、韓国語の修得と韓国文化を学ぶことにあり、国費留学生のため、基本的な学費・生活費は支給される。期間は3月1日から8月28日までの6ヶ月。留学中に修学した科目は、評価を受け、単位取得科目は、本学科目に認定される。

バレーボールで大熱戦
体育祭盛大に

予選はあらかじめ抽選により分けられた4ブロックでのリーグ方式、決勝は各ブロック上位4チームによるトーナメント方式で行われた。

バレーボール大会は終始白熱した対戦が繰り広げられ、

さわやかな五月晴れのもと学生会主催による体育祭が5月12日、本学40周年記念館で行われた。昨年までは栃木市総合運動公園陸上競技場で行われていたが、本年は会場を本学40周年記念館に移し、バレーボール大会を開催することになった。



プレーに熱中する選手たち

出場選手・応援ともに大いに盛り上がりを見せた。学生会をはじめ体育祭実行委員・バレーボール部員を中心に参加者全員の協力により、今年の体育祭は大成を収めた。成績は次のとおり。

総合成績

優勝

初等教育学科1年1組

ブロック優勝

Aブロック

初等教育学科2年1組

Bブロック

初等教育学科2年2組

Cブロック

初等教育学科1年1組

Dブロック

商学科

1年2組



東照宮で文化財の説明に耳を傾ける学生

こころざしも新たに

1年生日光二社参拝親睦旅行

入学後間もない4月21日、本学への入学奉告と学業成就・健康安全の祈願、またこれから勉学をともにする友人との親睦をより深めることを目的として、1年生恒例の日光東照宮・日光二荒山神社参拝親睦旅行が行われた。

中宮祠にはまだ雪が残っていたものの晴天に恵まれた暖かな一日であった。

学生会だより

■ 平成 22 年度 学生会本部役員 ■

会 長 中村 伸子（家政 2 年）

副会長 西間木麻美（国文 2 年）

体育祭実行委員長 原澤くるみ（家政 2 年）

体育祭副実行委員長 二渡 雄斗（国文 2 年）

オープンキャンパス委員長 鈴木 詩織（日史 2 年）

春花祭実行委員長 中村 由佳（日史 2 年）

春花祭副実行委員長 山口 航（商 2 年）

会 計 石井 千晶（初教 2 年）

谷口 茉佑（初教 2 年）

書 記 柴崎れいか（家政 2 年）

充実した学生生活を

学生会長 中村伸子

暖かい日差しが心地よい春、新入生を迎え、学内全体が活気づいてきました。

今年は5月12日に「体育祭」が行われ、新たな試みとして記念館アリーナでのバレーボール大会となりました。体育科の先生方にご指導を頂きつつ、体育祭実行委員長がリーダーシップをとり、学生会メンバー全員が責任を持って取り組みました。当日は、バレーボール部員の協力のもとに進み、体育館の中に歓声が響き渡って盛り上がり、無事に終わることができました。

秋には、もう一つのビックイベントである「春花祭」が行われます。体育祭と同様、皆さんの心に残る行事に作り上げていきたいと思ひます。

不慣れで力不足の部分もある学生会ですが、頑張りますので何卒よろしくお願い致します。

生産と収穫の喜びを体験

- 栃本市ふるさと農業体験学習 -

昨年引き続き、「収穫等の体験活動をとおして、消費者と生産者との交流や、食料や農業の大切さを認識し、本市農業の理解促進を図る」ことを目的とする、栃本市農業者懇談会主催の『ふるさと農業体験学習』が、本年度も5月22日に実施された。

参加者は、田中彦教授、佐藤秋子助教、仁戸部幸子職員の引率で、学生は男女合わせて43名であった。一行は市で用意してくれたバス2台に分乗し、まずトマト狩りの圃場とイチゴ狩りの圃場へ。そこで収穫体験をした後、いづるふれあいの森で、農村生活研究グループが準備してくれたバーベキューの昼食に舌鼓を打った。

その後行われた4日クラブ司会の意見交換会では、学生からの食と農業に対する率直な感想と、今日のこの催しに対する感謝の思いが述べられ、解散となった。

保育だよりの発行

技術を習得し、一層、保育を学ぶことへの関心を高めた。また、保育者が便りを介して、保育の様子や子どもの保育ぶりを伝えることが、保護者との連携の醸成に、欠くことのできない価値をもつことを実感した。

苦心の作品
保育だより

お悔やみ

板垣 慧先生ご逝去



平成2年4月から平成13年3月まで、初等教育学科で理科教育の科目をご担当いただいた板垣慧先生が、3月23日逝去された。享年80歳。

先生は、昭和28年3月山形大学教育学部を卒業後、山形大学教育学部附属小学校に勤務され、昭和40年4月東京教育大学（現筑波大学）附属小学校に転任された。

同校を退職後、平成2年4月より本学非常勤講師としてご勤務いただき、平成4年4月からは専任教員として平成13年3月に定年退職されるまで、初等教育学科の教科教育法理科、保育内容環境などの講義を担当いただいた。謹んでご冥福をお祈りいたします。

事			報		
■ 人 事 ■			◆ 依願退職		
任特任教授		4 月 1 日付	准教授 (日本美術史)		3 月31日付
	大西 秀彦	北村 奉正	非常勤講師 (教育原理)		佐多 芳彦
同	坂口 耕史	杉浦 左知	同 (フランス語)		岩本 親憲
同	山本 博子	渡邊 敏一	同 (学校経営と学校図書館)		梅比良節子
任特任准教授		4 月 1 日付	同 (自然地理学)		片山喜八郎
	小川 浩子	栗原 和子	同 (管理会計)		清水 長正
◆ 昇任		4 月 1 日付	同 (管理会計)		東海林孝一
任教授 (准教授)		後藤 正人	同 (創作文芸入門)		千勝三喜男
同		小林 青樹	同 (民俗文芸講読)		細矢 籐策
同		早川富美子	同 (健康相談活動)		渡邊恵美子
			■ 行事・集会 ■		
◆ 新任		4 月 1 日付	4 月 2・3 日	国文学科 2 年生コース別研修旅行	
任特任専任講師 (フレスコ・イン・グラフィック)		天野寿々子	7 日	第45回入学式	
委嘱非常勤講師 (小児保健Ⅲ)		阿部 淳子	8 日～13 日	2 年生成績表交付	
同 (データの科学)		小野寺 剛		オリエンテーション・健康診断	
同 (日本美術史)		北口 英雄	14 日	授業開始	
同 (自然地理学)		小 嚙 尚	20 日	履修届提出	
同 (コリア語)		崔 文姫	21 日	1 年生親睦旅行	
同 (創作文芸入門)		中西 洋子		(日光二荒山神社・東照宮)	
同 (小児保健Ⅰ・Ⅱ)		長町由紀子	5 月12 日	体育祭 (バレーボール大会)	
同 (教育原理)		原口 友輝			
同 (小児栄養)		山口 律奈			
			◆ 依願退職		
◆ 定年退職		3 月31日付	准教授 (日本美術史)		3 月31日付
教 授 (教科専門算数)		正木 孝昌	非常勤講師 (教育原理)		佐多 芳彦
(22年度非常勤講師を委嘱)			同 (フランス語)		岩本 親憲
学生課主任		仁戸部幸子	同 (学校経営と学校図書館)		梅比良節子
(22年度嘱託を委嘱)			同 (自然地理学)		片山喜八郎
			同 (管理会計)		清水 長正
			同 (創作文芸入門)		東海林孝一
			同 (民俗文芸講読)		千勝三喜男
			同 (健康相談活動)		細矢 籐策
			渡邊恵美子		

オープンキャンパス 来て、見て、なっとく



来場する多くの高校生

期日 6/27(日) 7/25(日) 8/7(土)
8/21(土) 9/5(日)

時間は毎回 12:30～15:30
(受付 12:00～12:30)

内容 入試概要説明・施設見学・質疑応答などのほか模擬授業も体験できます。
予約の必要はありません。どなたでも参加できます。

平成23年度学生募集概要

入試日程および選抜方法

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表日	選 抜 方 法
一般推薦入試 指定校推薦入試 卒業生子女入試	10月22日(金) ～11月4日(木)	11月8日(月)	11月11日(木)	①一般推薦入試/調査書、小論文(800字・60分)、面接 ②指定校推薦入試/調査書、面接 ③卒業生子女入試/志望理由書、課題、面接
自己推薦入試 社会人入試	11月15日(月) ～12月3日(金)	12月7日(火)	12月9日(木)	①自己推薦入試 ②社会人入試/調査書、自己推薦文(800字・60分)、面接
A方式入試 センター型入試 (A日程) 奨学生入試	平成23年 1月11日(火) ～2月3日(木)	2月7日(月) センター型を除く	2月10日(木)	①A方式入試/学科試験(1科目)、面接 ②センター型入試/センター試験における成績(2科目得点) ③奨学生入試/学科試験(2科目)、面接
B方式入試 センター型入試 (B日程) 国学院大学受験者 対象入試(B日程)	平成23年 2月14日(月) ～3月5日(土)	3月9日(水) センター型を除く	3月11日(金)	①B方式入試/学科試験(2科目)、面接 ②センター型入試/センター試験における成績(2科目得点) ③国大受験対象入試/(I)国学院大学における受験結果(得点)、 面接 (II)センター試験における成績(得点)、面接 (III)学科試験(2科目)、面接 (I)(II)(III)を志願者本人が選択
C方式入試 センター型入試 (C日程) 国学院大学受験者 対象入試(C日程)	平成23年 3月10日(木) ～3月22日(火)	3月24日(木) センター型を除く	3月25日(金)	①C方式入試/小論文(600字程度・60分)、面接 ②センター型入試/センター試験における成績(2科目得点) ③国大受験対象入試/(I)国学院大学における受験結果(得点)、 面接 (II)センター試験における成績(得点)、面接 (III)小論文、面接 (I)(II)(III)を志願者本人が選択

対話型AO入試日程および選抜方法

試験種別	登録期間	願書受付期間	合格発表日	選 抜 方 法
対話型AO入試	7月5日(月) ～9月9日(木)	10月6日(水) ～10月15日(金)	10月21日(木)	1. エントリーシート・調査書による一次面談 2. 二次登録・課題提出による二次面談 3. 志願書提出による最終選考(二次面談で選抜された者に限る)

募集学科および募集人員

募集学科		国文学科	家政学科	初等教育学科	日本史学科	商 学 科
募集人員内訳	募集人員	80名	70名	80名 小学校・幼稚園コース 40名 幼稚園・保育コース 40名	70名	60名
	対話型AO入試	3名	3名	2名	2名	3名
	一般推薦入試	25名	20名	15名	23名	22名
	指定校推薦入試					
	卒業生子女入試	2名	2名	2名	1名	2名
	自己推薦入試	5名	5名	3名	2名	3名
	社会人入試					
	センター型入試	25名	20名	8名	5名	15名
	奨学生入試	2名	2名	1名	1名	2名
	A方式入試	8名	8名	4名	3名	5名
	B方式入試 国学院大学受験者対象入試(B日程)	7名	7名	3名	2名	6名
	C方式入試 国学院大学受験者対象入試(C日程)	3名	3名	2名	1名	3名

※初等教育学科はコース別の募集となります。

※卒業生子女入試については、ご連絡をお待ちしております。どうぞご活用ください。

詳細は、学生募集要項を請求のうえ、確認してください。

- ◎ ハガキによる請求→ 〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地 国学院大学栃木短期大学入試係
- ◎ 電話による請求→ 国学院大学栃木短期大学入試係 TEL 0282-22-5511 <代表>
- ◎ 本学ホームページからの請求→ <http://www.kokugakuintochigi.ac.jp/tandai/>